

第60回日本眼光学学会総会 学術助成報告書

大阪大学大学院医学系研究科 視覚先端医学寄附講座

高 静 花

台風のち晴れ、学びの光きらめく2日間

成和記念財団の皆様へ

このたびは、第60回日本眼光学学会総会(2024年8月31日～9月1日・神戸)の開催にあたり、格別のご支援を賜り、心より御礼申し上げます。おかげさまで、学会は大いに盛り上がり、新たな挑戦に満ちた素晴らしい2日間となりました。

台風を乗り越えて

開催直前、台風10号がゆっくり近づいてきて、関係者一同ハラハラドキドキ。しかし、天候は奇跡的に回復し、無事に開催することができました。ただ、新幹線の運休で参加が叶わなかった方々には申し訳ない気持ちでいっぱいです。

Cheer up with optics! ～楽しく学べる学会を目指して～

今回の学会テーマは「Cheer up with optics」。眼光学は少し難しく聞こえるかもしれませんが、「もっと身近に、もっと楽しく!」を目指して、以下の3つの新しい試みを行いました。

1.「新しい学会を!」

- 初めてのポスター発表を導入し、若手研究者を応援しました。(写真1)
- 46演題(過去10年で最多!)の発表があり、会場は活気に満ちていました。
- 「ベストペーパー」「ベストポスター」「ベストルーキー」の各賞を設け、頑張った皆さんを表彰しました。

2.「参加者みんなが主役に!」

- ポスター発表専用の時間を設け、交流を促進。
- 参加者同士がじっくり話し合い、新たなアイデアが生まれる場となりました。

3.「60周年を祝うプログラム!」

- 記念対談: テーマのスライドだけを使い、自由な雰囲気でのトークが大好評でした。(写真2)
- 産学シンポジウム: 会場全員で“Happy Birthday Song”を合唱し、会長がピアノで伴奏するという、ほっこりした場面も。(写真3)

また、私の留学時代のボスである Prof. Geunyoung Yoon (University of Houston College of Optometry, USA) を招待講演にお迎えし、多くの方が旧交を温める貴重な機会となりました。(写真4)

学会では、研究成果だけでなく、神戸のスイーツやパンも楽しんでいただき、「おいしかった!」という声も多数いただきました。来場が難しい方のために急遽オンデマンド配信も行い、合計454名の方にご参加いただきました。

研究の楽しさと今後の展望

私は、角膜や眼表面、視機能を専門とする眼科医で、長年にわたり工学・光学分野の方々とともに研究を進めてきました。眼科の世界は広く、病気の診断や治療だけでなく、視覚の質を向上させたり、新しい医療機器を開発したりと、未来につながるワクワクする分野です。

日本眼光学学会は、1965年に第1回が開催され、毎年続いてきた歴史ある学会です。医師だけでなく、視能訓練士、生理光学の研究者、企業の技術者、心理物理学者など、多くの分野の専門家が集まり、知識を交換する場となっています。医学と工学が交わるユニークな学会であり、最先端の光学技術が眼科医療にどのように活かされるのかを議論する場でもあります。

近年の研究では、

- 診断・治療の進歩により、一人ひとりに合わせた治療が可能になってきていること
 - 人工知能(AI)や光学技術の発展により、診断の精度が飛躍的に向上していること
 - 角膜・眼表面の診断技術がさらに進化し、より正確な評価ができるようになってきていること
- といったトピックが注目されています。

私自身、角膜や眼表面の診断技術向上に関わる研究を進めており、屈折矯正、白内障手術、コンタクトレンズの設計など、視機能の最適化に関する研究もますます発展しています。今後も、さまざまな分野の知見を取り入れながら、眼科学の未来に貢献していきたいと考えています。

おわりに

最後になりましたが、今回の学会を無事開催できたのも、成和記念財団の皆様のご支援のおかげです。本当にありがとうございました！ これからも眼光学の発展を通じて、皆さまのご期待に応えられるよう精進してまいります。今後とも温かいご指導・ご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(日本眼光学学会 第60回総会 会長)

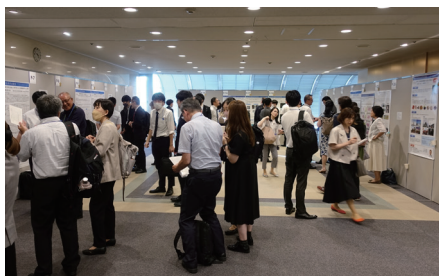


写真1

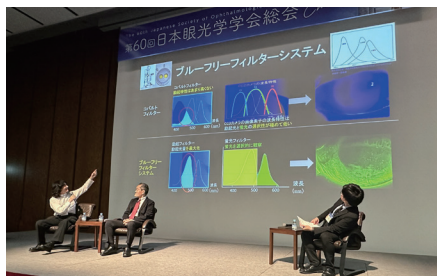


写真2



写真3

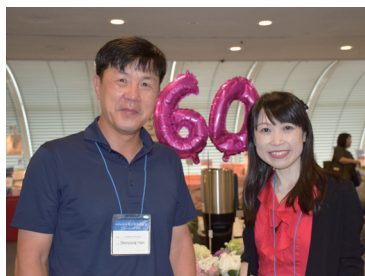


写真4